

東日本大震災から1年～今わたしたちにできること～

# 災害支援活動報告と 今後の活動展開

社団法人 小千谷青年会議所

## ～東日本大震災発生から支援活動開始まで～

### 3月12日

臨時正副理事長会議を開催し、被災地支援活動と救援物資搬送に取り組むことを確認。

### 3月14日

小千谷青年会議所メンバーから救援物資を募集。埼玉県物流センター経由にて福島県へ搬送。

(この時、救援物資を恩返しの気持ちと一緒にお届けするプロジェクトを計画)

### 3月15日

臨時理事会を開催し、救援物資収集を行うことを確認。  
(プロジェクトの開始)

# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第一弾 ～みんなの思い届けます～

## 東日本大震災

**緊急!** 3月19日(土)より  
求む! **救援物資**

あのときのことを思い出して・・・  
ら、必要となる支援物資を求めます。  
一枚の紙おむつ、一服の湯が  
一人ひとりの気持ちが大きな『勇氣』に変わります。

図様のご家庭にあるもので、密に封じて役立つものをお持ちください

例えば... ・毛布・カイロ・紙おむつ・粉ミルク・電池  
・携帯充電器・食料品※・衣類※・日用品 等々

※注意! ・食料品に関しては生もの、開封済みのものは不要願います。  
・衣類などは未使用で目の届いてるものにしてください。  
・被災地に送るのに適当でないものはご遠慮ください。

お持ち頂いたものは責任を持って兩位にお届け致します。  
ただし、お返し受けできないものは返却させていただきます。  
電石一箱、紙おむつ一箱からでも受け付けております。

地図

【受け取り場所】

小千谷市平沢新田  
小千谷市車両センター内  
ジャスコ裏 入口に看板あり

【受付期間】

3月19日(土)～未定

【受付時間】

月～金 13:00～19:00

土日祝 9:00～17:00

“おぢやからの恩返し” プロジェクト

～みんなの思い届けます～

社団法人 小千谷青年会事務所・小千谷JCIシニアクラブ

お問い合わせ先: 080-3010-6688 (事務局)

小千谷JCI

事務局

JCI

物資収集に関するチラシを作成し、3月19日より収集を開始。

小千谷市及び小千谷JCIシニアクラブより協力いただき、救援物資受付センターを小千谷市車両センターに開設。

# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第一弾 ~みんなの思い届けます~



**3月16日, 17日**

イオン小千谷店、原信小千谷城内店、コメリホームセンター小千谷店、ベイシア小千谷店の協力を得て、各店頭にて救援物資募集チラシを手配り配布。



**3月18日**

救援物資募集チラシを、小千谷市全戸へ配布

# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第一弾 ~みんなの思い届けます~

**3月19日~25日**  
救援物資受付及び搬送

多い日で、1日に700人を超える市民の皆様から、暖かいお気持ちをお預かりしました。





# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第一弾 ~みんなの思い届けます~



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第一弾 ~みんなの思い届けます~



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第一弾 ~みんなの思い届けます~



社会福祉協議会から協力をいただき、市民の方から物資仕分けのボランティアをいただきました。



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第一弾 ~みんなの思い届けます~



お預かりした物資は、長岡の  
収集基地を経由して、被災地  
へお届けしました。

# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第一弾 ～みんなの思い届けます～



救援物資をお持ちいただいた市民の皆様からメッセージをいただき、救援物資に貼り付け、市民の皆様のお思いも一緒にお届けしました。



物資をお持ちいただいた市民の皆様へお礼として、菜の花の種をお渡ししました。



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第一弾 ~みんなの思い届けます~



小千谷市より依頼があり、福島県より避難され、民泊されている方々、総合体育館へ避難されている方々へも物資をお渡ししました。



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第一弾 ～みんなの思い届けます～

3月25日までに、延べ3,612名の方々から来場いただき、お気持ちをお預かりしました。

## 救援物資受付 最終集計一覧

●毛布類	1,902枚	●オムツ	22,678枚
●タオル	13,035枚	●カイロ	9,901枚
●ティッシュ	4,880個	●衣類	8,833着
●女性用品	3,535組	●生活雑貨	15,747個
●食料品	178箱	●飲料水	1,760リットル
●米	680kg		

(4tトラック15台分の物資を搬送)



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』



4月7日から28日の毎週  
月、木曜日に総合体育館へ避  
難されている方々へ汁物の炊  
き出しを行いました。



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』

4月28日

JCメンバーにて南相馬市鹿島区にて、泥出しのボランティアを行いました。



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』

泥出しの活動終了後、南相馬市の原町青年会議所を訪れ、中越大震災の際に立ち上げた経済支援の一環である「シールプロジェクト」のマニュアルをお渡ししました。





# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第二弾 ～チャリティーイベント 東北物産展～

被災直後に行った直接的な支援である「第一弾」に続き、震災からふた月立った時点でできるものは何かを考えました。

自粛よりも通常の経済活動を営むことが復興支援につながるとの認識の広まり、首都圏での被災地域の物産品を購入する事を通しての支援活動の活発化を受け、小千谷地域においても同様に東北地方の物産を購入できる機会を設ける必要があると考え、このプロジェクト第二弾を計画し、実施しました。



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第二弾 ～チャリティーイベント 東北物産展～

## 【目的】

1. 被災地域の物産を消費していただき、その一部を義損金として届ける。
2. 被災地域の物産を広く知っていただき、継続的な購買へと結びつけることにより、長期的な支援活動へとつなげる。
3. 「被災者への支援活動をしたい」という市民の方の思いを具現化するための場を提供する。

# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第二弾 ～チャリティーイベント 東北物産展～



5月29日

小千谷市総合体育館広場にて開催。

東北の物産品78品目を出品した物産販売ブースは、3時間程度で完売し、100万円を超える売上となった。

# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第二弾 ～チャリティーイベント 東北物産展～

南相馬市の原町青年会議所様  
より、地元の名産品を提供し  
ていただきました。



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第二弾 ～チャリティーイベント 東北物産展～



飲食ブースには、市内の事業所より出店していただき、東北の産品を使った飲食物を提供していただきました。



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第二弾 ～チャリティーイベント 東北物産展～

東北観光案内やチャリティーバザー、義損金フォトなどをはじめとしたチャリティーブースにも、多くの団体の方より出店いただき、集まった義損金を日本赤十字社を通じて被災地へ届けました。



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第二弾 ～チャリティーイベント 東北物産展～



賛同いただいた小千谷地域の  
各団体、プロのアーティスト  
よりチャリティーライブを盛  
り上げていただきました。

# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第二弾 ～チャリティーイベント 東北物産展～

「少しでも被災地の力になれば」という方々の思いが、  
100名を超える協力者と、  
2,000名を超える来場者  
といった形になりました。

その気持ちを持ちつづけるこ  
とが長期的な支援の第一歩だ  
と考えます。





# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第二弾 ～チャリティーイベント 東北物産展～

## 【物産展事業概要】

事業名	チャリティーイベント東北物産展 買って食べて東北の力になろう！
開催日時	平成23年5月29日（日）
開催場所	小千谷市総合体育館広場
主催	社団法人小千谷青年会議所
後援	小千谷商工会議所
共催	にいがたスマイルマーケット

# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第二弾 ～チャリティーイベント 東北物産展～

## ＜チャリティーブース＞※順不同、敬称略

小千谷商工会議所（総合案内）、小千谷トラベル（東北観光案内所）、原町青年会議所（地元名産品提供）、にいがたスマイルマーケット（チャリティーバザー）、PEOPLE i SLAND（義損金フォト）、JAPANUNITY（チャリティーTシャツ販売）、おもちゃドクター（おもちゃ病院）、小千谷市社会福祉協議会（キッズランドおもちゃ提供）、たかの（東北物産品販売）

## ＜飲食ブース＞※順不同、敬称略

魚晃、和韓ダイニングRyu、おこわや、ROCKSTEADY、きぶん家、ウォーターキッチン、キャナック、竹美、イチカラ畑、トラットリア・レ・アーリ、池田屋、DoTaCo's

# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第二弾 ～チャリティーイベント 東北物産展～

＜ステージアトラクション出演者＞ ※順不同、敬称略

ひばり認定子ども園（園児による歌とダンス）、佐藤祐亮（ミニライブ）、光武館-小千谷空手道スポーツ少年団（空手道演武）、小千谷太鼓（太鼓演奏）、ショピン（ライブ）、ネオン（ダンス）、小千谷カルチャースクール（フラダンス）、創作炎舞集団A H I A H I（ポイ&ダンスパフォーマンス）、堀沢ファミリー（三味線演奏・南相馬民謡）、アイアンマン（ライブ）、O S C・OjiyaSpritualChourus（コーラス）、U-S K U N K I N（ライブ）、穂波会（民謡）、湯浅みわ（司会）



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 第二弾 ～チャリティーイベント 東北物産展～

## < 売上等集計結果 >

東北物産販売ブース売上	1,059,230 円
チャリティーバザー売上	約 40,000 円 (来場者数 400 人以上)
綿あめ配布数	約 400 個
おもちゃ病院修理受付	約 10 点
義損金受付額	117,475 円

# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 ～第三弾の展望と今後の活動方向性～

未曾有の東日本大震災から1年、これからの私たちに何ができるのか、何をしなければならないのか。

改めて中越大震災での私たちの活動、方向性を見直しました。

そこで見えたものは、私たちがたどってきた復興への道のりを東日本大震災の被災地へ伝え、復興モデルの一例として参考としてもらうこと。また、被災地と私たちが住む「小千谷」を結ぶ架け橋となること。それが、私たち小千谷青年会議所ができることではないか、と考えました。

# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 ～第三弾の展望と今後の活動方向性～

中越大震災の経済的復興のためのツールであった、シールを利用したプロジェクト、そのプロジェクトを発端に「小千谷」を全国とつなぐ構想が生まれ、具現化された「おぢやファンクラブ」。

これらは、私たちがたどってきた復興への道のりそのものであり、また、復興モデルの一例としても参考になるのではないかと考えています。

今後恩返しプロジェクト第三弾として、これらをふまえ事業構築を進めたいと考えております。



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 ～第三弾の展望と今後の活動方向性～

## 【恩返しプロジェクト第三弾】

### （目的）

東日本大震災の復興支援策として、8年前に中越大震災で被災した私たちがたどってきた復興への道筋を東日本大震災の被災地へ伝え、復興モデルの一例として参考としてもらう。

### （手法）

「おぢやファンクラブ」設立の経緯と現状をまとめ、被災地域の自治体、青年会議所等の団体へ情報を提供する。

# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 ～第三弾の展望と今後の活動方向性～

【なぜ、「おぢやファンクラブ」なのか】

## ＜おぢやファンクラブ設立の経緯＞

社団法人小千谷青年会議所では、中越大震災からの復興のためのツールとして、シールを作成し販売。シール1枚につき1円を義損金に当て、結果、900万枚を売上げ、約1,000万円の義損金が生まれた。「立ち上がれ！中越」プロジェクト



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 ～第三弾の展望と今後の活動方向性～



「立ち上げれ！中越」プロジェクトは、小千谷青年会議所のメンバーと数名のボランティアの方で運営。プロジェクトリーダーは、当時の小千谷青年会議所理事長 宮崎悦男氏だった。ボランティアセンターの副本部長を務め、その役目を遂行する中でシールを利用した復興支援の形を考案した。



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 ～第三弾の展望と今後の活動方向性～



宮崎氏は、復旧・復興のために集まったボランティアの方々、シールを購入して下さった全国の皆様との繋がりを大切にし、末永いお付き合いができないものかと考えるようになった。



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 ～第三弾の展望と今後の活動方向性～

奇しくも大地震の被災地というマイナスのイメージで全国的に有名になった小千谷市ではあるが、復興に向けた市民ワーキングで、小千谷にも全国に誇れる文化や歴史、物産があることを発信していくべきという話し合いの中、「おぢやファンクラブ」構想が持ち上がる。





# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 ～第三弾の展望と今後の活動方向性～



「おぢやファンクラブ」の基本構想は、宮崎悦男氏、大塚副市長、小千谷商工会議所星野事務局長及び小千谷青年会議所 田村敦之の4名で作っていった。



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 ～第三弾の展望と今後の活動方向性～

## <おぢやファンクラブの設立>

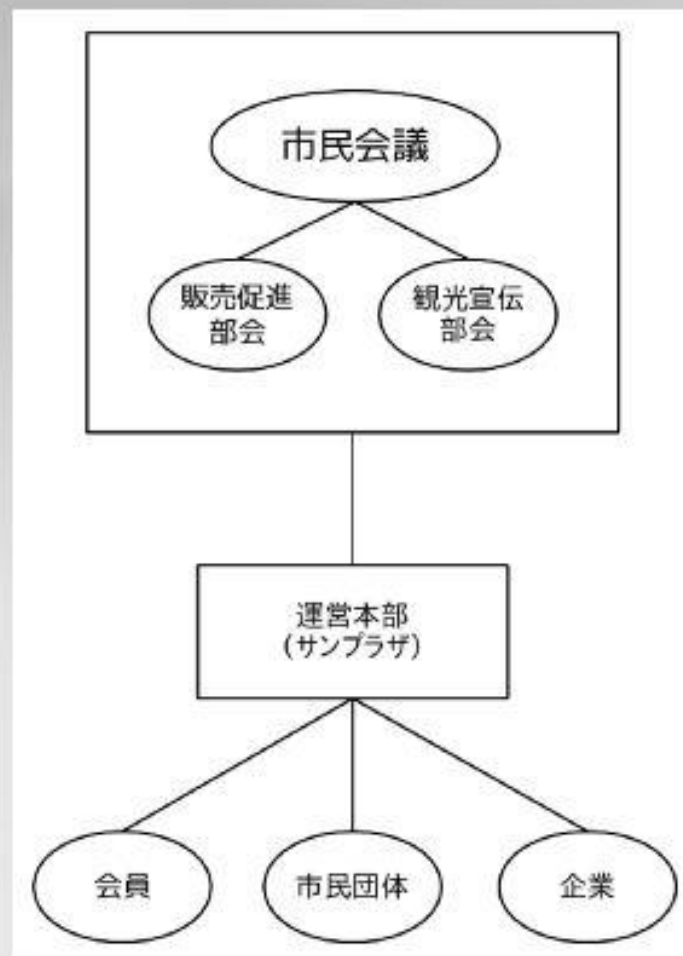
「おぢやファンクラブ」は会員制とし、その会員に小千谷市のお米やお酒、そばなどの物産品の販売、地域情報の発信及び交流事業を実施することにより、新潟県中越大震災からの復興を目指し、産業・経済の創造的な復興と振興・発展に寄与することを目的に活動を始めた。





# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 ～第三弾の展望と今後の活動方向性～

設立後、小千谷市総合産業会館サンプラザに執行機関となる運営本部が置かれ、谷井市長を議長とする、最高意思決定機関である「おぢやファンクラブ市民会議」が組織された。



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 ～第三弾の展望と今後の活動方向性～

会員募集が始まり、平成19年8月時点で506名の応募があった。

平成19年12月から、主に通信販売で小千谷の物産を販売する活動がスタート。

この時の12月には**1,434名**の会員を獲得。

そして現在の会員数は、**9,088名**にのぼり、さらに拡大中。  
目標の会員数10,000人まであと少しのところにある。

(平成24年2月13日現在)

# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 ～第三弾の展望と今後の活動方向性～

## <おぢやファンクラブの活動内容>

### ◆ 販売促進事業

#### 1. 通信販売事業

##### <<DM>>

お中元、新米、お歳暮、  
売り上げアップ

##### <<ゆうパック>>

笹団子、米ちまき

##### <<ネットショッピング>>

おぢやファンクラブweb



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』

## ～第三弾の展望と今後の活動方向性～

### おちやファンクラブ PR事業

ファンクラブ会員の集まりと地域が繋がりをいよしている。

期日	イベント名	会場
4月28日	ふるさと交流市場	富岡寺後中通り
4月29日	小千谷フェア	井草 学生寮
5月3日	年の角突き	小千谷競牛場
5月8日	鯉鱒まつり	サンブラザ正産玄園
5月21日	花と緑の井草祭り	杉並花卉センター
5月22日	ふるさと村	ふるさと村
6月5日	年の角突き	小千谷競牛場
6月5日	セシオン杉並まつり	セシオン杉並
7月3日	年の角突き	小千谷競牛場
7月13日	新潟物産展 ～18日	大宮イトーヨーカドー
7月16日	水鏡センターまつり	水鏡和泉
8月13日	和道 ～16日	リンブラザ売店
8月19日	おちやまつり ～21日	リンブラザ売店
9月9日	片貝まつり ～10日	菅澤川河川敷 花火会場 サンブラザ売店 片貝まつり会場
9月19日	ふるさと交流市場	富岡寺後中通り
9月25日	湖沼組合開催のウォーク	東山小学校
10月2日	年の角突き	小千谷競牛場
10月8日	震災復興祭 ～9日	講堂
10月9日	小千谷物産展 ～10日	上里サービスエリア
10月10日	下高まつり	下高井戸
10月16日	小千谷フェア	井草 学生寮
10月23日	そえ入館 オープン	専事館
10月29日	花と緑の井草祭り	杉並花卉センター
11月5日	あおぞら市場	小千谷競牛場
11月6日	年の角突き	小千谷競牛場
11月18日	関東甲信越物産展 ～20日	千原中央
12月3日	神楽原駅前ワンダーフェスティバル	神楽原駅前通商店街
12月4日	ふれあいフェスタ	セシオン杉並
12月16日	空欄ふるさと観光物産展 ～18日	千原中央
12月18日	小千谷フェア	井草 学生寮
12月21日	おちやふるさと市場	杉並区役所前
2月12日	おちや物産展	上里サービスエリア
2月19日	おちや物産展	上里サービスエリア
3月4日	おちや物産展	上里サービスエリア
3月11日	おちや物産展	上里サービスエリア

## 2. PR事業

### 《イベント参加》

各種イベントへの参加  
及び物産展への出店





# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 ～第三弾の展望と今後の活動方向性～

## ◆ 観光宣伝事業

≪ グリーンツーリズム ≫

グリーンツーリズム推進協議会事務局を設け、教育体験旅行の受け入れに関わる事務を行う。



## ☆ 教育体験旅行実績

年度	参加校数	参加人数
2007 年度	1 校	136 名
2008 年度	3 校	321 名
2009 年度	2 校	65 名
2010 年度	4 校	517 名
2011 年度	5 校	717 名

# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 ～第三弾の展望と今後の活動方向性～

## ☆ ツアー実績

年度	回数	参加人数
2008年度	1回	17名
2009年度	7回	54名
2010年度	4回	46名
2011年度	8回	105名

### ≪小千谷発着ツアー≫

- ・収穫体験
- ・ほんやら洞ツアーなど

### ≪レンタサイクル≫

5台のレンタル自転車の提供



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 ～第三弾の展望と今後の活動方向性～

## <おぢやファンクラブの会員特典>

- ・小千谷市の情報を定期的に送付。
- ・毎月抽選で小千谷の特産品をプレゼント。
- ・商品の送料は、全国一律600円。
- ・おぢやまつり花火大会観覧席を優待料金でご案内。
- ・片貝まつり花火大会棧敷席に抽選でご招待。
- ・おぢやファンクラブ会員限定企画への参加。
- ・おぢやファンクラブ会員証を提示することで、市内の協力店で特別サービスの提供。

# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 ～第三弾の展望と今後の活動方向性～

## <おぢやファンクラブの実績>

### ☆ 交流人口の増加

会員数 9,088 名（平成 24 年 2 月 13 日現在）

### ☆ サンプラザ売店の売上増加

売上高 150% アップ

（おぢやファンクラブ設立前と平成 23 年度の売上比較）



# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 ～第三弾の展望と今後の活動方向性～

以上のように、「おぢやファンクラブ」という仕組みにおいて、全国の方々との経済的交流と人的交流が生まれ、現在でもなお活発に活動しています。

この仕組みは、長期的に経済のみならず、人と人とのふれ合いをしっかりと結ぶ力があると考え、復興モデルの一例として、情報をまとめ、提供していきたいと考えております。

# 『小千谷からの恩返しプロジェクト』 ～第三弾の展望と今後の活動方向性～

昨年11月、恩返しプロジェクト第一弾のお礼にお配りした菜の花の種が、岩手県の宮古水産高校に届いたことを知り、同校へ種とプランター100個をお送りしました。



お送りした種とプランターは、同校の生徒たちの手によって、河南仮設住宅へ配られました。



『小千谷からの恩返しプロジェクト』  
～第三弾の展望と今後の活動方向性～

私たち小千谷青年会議所は、今後も被災地への支援活動を続けるとともに、小千谷市民の皆様のお気持ちを一つでも多くお届けするべく活動してまいります。

ご清聴ありがとうございました。